

# 人権尊重の精神に立った学校づくり

熊本県教育庁教育指導局 人権同和教育課

本年6月4日に実施した「平成27年度校長人権教育推進会議・県立学校人権教育主任研修」の概要についてお知らせします。

## 【講演】

講師：大阪大学大学院 人間科学研究科 志水 宏吉 教授（※）

演題：人権尊重の精神に立った学校づくり～リーダーに求められること～



- 学校づくりの基盤は人権教育である。一人一人の子どもたちが生き生きとしている学校づくりが大切である。
- 人権教育によく取り組んでいる学校では、教職員、特に若手教職員の人権意識や人権知識が高いという結果から、「人権尊重の精神に立った学校づくり」を進めることが重要である。
- 「力のある学校」とは、学校に通うすべての子どもたちをエンパワーする学校のことである。「力のある学校」をスクールバスのイメージでとらえ、備えるべき要素を8つにまとめた。
  - ①気持ちのそろった教職員集団②戦略的で柔軟な学校運営③豊かなつながりを生み出す生徒指導④すべての子どもの学びを支える学習指導⑤ともに育つ地域・校種間連携⑥双方向的な家庭とのかかわり⑦安心して学べる学校環境⑧前向きで活動的な学校文化
- 「力のある学校」は、人権教育の視点をベースにしている。スクールバスの土台部分に人権教育の精神がある。校長先生には、学校の在り方を検討する際の「検証軸」として活用していただきたい。
- スクールバスを走らせる上でリーダーに求められることは、リーダーのフィロソフィ（哲学）である。信念を持っていること、学校づくりのビジョンを示すこと、校長のキャラクター（人柄）が大切である。
- 校長先生には、スクールバスを動かす時、エンジンをかける（先生方の気持ちに火を点ける）キーパーソンになっていただきたい。

※平成26年度人権教育の推進に関する教職員アンケート調査結果を分析依頼中。

## 【実践発表】

### 【山鹿市立山鹿小学校】（平成26年度人権教育フォーラム 実践発表校）

○校長先生が共通実践をするための手立てを示し、各主任・各部会（3部制）が主体性を発揮するよう効果的な連携と役割分担を図り、学校全体で共通実践していく推進体制の機能強化を工夫されています。

### 【芦北町立佐敷中学校】（平成26・27年度文部科学省人権教育研究指定校）

○「人権が尊重される授業づくりの視点例」を活用し、「生徒一人一人を大切にした授業デザイン」を核とした「授業づくり」と、「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させた取組を工夫されています。※研究発表会：平成27年10月28日（水）

### 【県立湧心館高等学校（定時制）】（平成26年度県立学校等人権教育研究協力校）

○「生活体験作文作成」の取組を通して、教職員の生徒理解、生徒の自己理解を深め、生活体験発表会を全校生徒が共に学び合う場と位置付け、生徒同士が「互いを認め合うことのできる集団づくり」につなげるなどの工夫がされています。

### 【県立熊本工業高等学校（全日制）】（平成26年度県立学校等人権教育研究協力校）

○「5S活動」の実践や「綱領『友愛協調』」等に人権教育の視点を取り入れた様々な取組をされ、生徒の実態把握・分析、生徒に身に付けさせたい力の共通理解・実践、実践レポート研修につなげるといったPDCAサイクルを活かした組織的な取組を工夫されています。